

会議録

起案日：令和5年10月25日

下記のとおり会議録を作成しましたので報告します。

件 名	令和5年度 第1回丹波市立文化ホール事業推進会議
日 時	令和5年10月24日（火） 19:30 ～ 21:15
場 所	春日住民センター1階 大会議室
出席者	[委 員] 角 悟会長、荻野 直貴副会長、安達 三紀子委員、田邊 利典委員、 内田 順子委員、中出 靖大委員、吉見 美佳委員 (※欠席：中谷委員、梅谷委員) [事務局] まちづくり部長 福井 誠 次長兼文化・スポーツ課長 谷水 仁 文化・スポーツ課芸術文化係 瀬頭 史勇
【会議要録】 1 開 会 事務局 ・事務局よりあいさつ (事務局) 令和4年度からホール技術員の人員体制が4名体制から2名体制となり、非常に運営が困難となっている。それに伴い、これまで以上にオペレータークラブ ZERO-IVスタッフ及びアマチュアアーティスト育成支援事業実行委員の皆様にご協力いただき、なんとか市民にご迷惑をかけずに運営ができている状況となっている。 専門スタッフの人材育成やホール技術員の確保は、市の直営で運営することが非常に困難であると判断し、ホール事業の理念を理解し「丹波市ならではの」のホール運営ができる団体に委託をするという方向で話を進めている。 前回の推進会議の中で、令和5年5月に第1回推進会議を開催し、令和4年度の事業報告並びに文化ホール運営業務委託の進捗状況について、ご説明させていただくこととしていたが、委託予定団体との協議や市の事務遅延により、本日まで開催の時期が遅れたことについてお詫び申し上げる。 丹波市立文化ホールが、生涯学習・社会教育の拠点としてこれまで通り運営できるよう、今後ともご協力願いたい。 ・会議の成立 (事務局) 委員9名中7名の出席により、会議成立 2 あいさつ 会長 3 委嘱書の交付 丹波市観光協会より推薦いただいた委員に、事務局より委嘱書を手交 自己紹介 出席委員7名、事務局まちづくり部3名 4 報告事項 以下、議事進行を会長に依頼 —傍聴者の確認— (事務局) 一般5名の申込みあり、報道機関は申込みなし	

—会議の公開等の確認—

(会長)

丹波市立文化ホール事業推進会議に関する運営要綱第2条より、会議の公開又は全部若しくは一部の非公開について諮る。本日の議事においては、個人情報に関するものはなく、丹波市情報公開条例に規定される不開示情報はないため、公開とする。

【委員からの異論なし】

傍聴者全員の入室を認める。なお、議論の途中で個人が特定されるようなことがあれば、一時退席を願う場合もある。

(事務局)

傍聴者に資料及び傍聴に関する注意事項を説明

①令和4年度事業実施報告

②令和5年度事業進捗状況

(事務局)

—資料により説明—

令和4年度事業実施報告については、令和5年3月24日の令和4年度第4回ホール事業推進会議において詳細を説明しているため概要のみ説明。

令和5年度事業進捗状況については、令和5年4月から直近までの実績を説明。

(委員)

金子三勇士さんのピアノワークショップを申し込まれた方から、通知がなかなか届かず行ってもよいのか不安になられていた。通知が遅くなった理由を教えてください。また、申込み後、完了通知はなかったのか。

(事務局)

申込締め切りを10月13日とし、募集期間をかなり長く設定していた。早い段階で申込み頂いた方には、通知が遅くなり申込みからの期間が空き過ぎたと思っている。インターネットでお申し込み頂いた方には、自動的に受付完了通知が届くようになっている。ただ、この日に何時に来てくださいというお知らせは、10月13日以降の案内となった。

(委員)

2019年に12事業あって、コロナの影響もあり昨年と今年が7事業、令和6年度もまた枠が同じということになっているが、増やす予定はあるか。

(事務局)

前回の推進会議において、令和4年度と同様の額で実施すると報告させていただいた。まだ準備段階であるが、ホール運営を委託する中で市と委託予定団体とで検討することになる。結果的にはどうなるか分からないが、協議をしていきたいと思っている。

委託料が多くかかる公演を一つ持って来るとそれだけで終わってしまい、収益の良い公演もあれば、そうでない公演もあり、何を目玉にするか、どういった演者を選ぶのか、というあたりを委託予定団体と相談していきたいと考えているため、今の段階では回数が増えるのかという部分については断言できない。

(会長)

文化団体協議会という立場から、文化芸術体験講座「はじめの一步」には非常に期待している。

文化協会の会員はだんだん高齢化、団体グループも少数化となっており、そのような中子供から大人へ文化を繋いでいくことが大切だと考えており、そういう意味でも期待している。

(委員)

アマチュアアーティスト育成支援事業について、アンケートも取られ、市民ニーズの把握に努められていると思うが、少数でも頑張っておられる演劇、邦楽、能楽などいろいろとあると思うので、他にも目を向けていただきたい。

令和6年度事業については、半分以上決まっていて、あと大型事業に誰を呼んで来るのかだけ

になってしまうため、もう少し広い目で見て欲しい。

5 協議事項

①令和6年度事業計画（案）

（事務局）

—資料により説明—

（副会長）

令和6年度の事業計画、推進会議の在り方、団体としての意見となるが、何点か確認させていただきたい。

①前回の会議録は市のホームページに掲載されているのか。

②令和5年度の推進会議の開催について前回の会議の中では、文化ホール事業の委託に向けて会議の回数を増やすという答弁をされていた。5月は令和5年度未定事業の進捗報告、7月は令和6年度事業の合意と文化ホール事業委託に向けた状況報告を行うと言っていた。会議の冒頭で担当課より5月及び7月の会議については、事務局の遅延により延期となったとの説明があったが、10月に開催するまで委員は何も聞かされていなかった。推進会議の中で意見をすることがどのように反映されているのか分からない。今後もし、同じような状況になるのであれば、委員にはその都度報告をいただきたい。

計画を立てて推進会議を開催し報告すると言っていたが、なぜ10月の開催になったのか。

ホール運営委託の業務を進めるにあたっては、市が提示した計画どおりの推進会議を開催して意見聴取すべきではなかったのか。委員全員が理解できるように説明を求める。真剣に委託業務を進めているのか問いたい。

③令和6年度事業計画策定にあたり、委託予定団体との協議はなされていたのか。

前回の会議において、市は、事前に委託予定団体と協議を行い、自主事業等の素案を作成し、その素案に対して推進会議で意見を聞き計画を策定していくと言われていた。今回、委託予定団体に計画は諮られたのか。諮られていないのであれば、その事業計画を推進会議にかけることが適切であると担当課は判断したのか。

1月の会議において、委員から令和6年度の事業を増やして欲しいという意見があった。市の答弁では、増やすよう努力するとあったが、努力はされたのか。

委員の意見が反映されているのか、今一度、この会議や委員の役割について説明をお願いしたい。

④ホール事業の運営委託は、丹波市文化芸術推進基本計画に基づいて、丹波市が進める施策であると理解している。業務委託開始により、その運営体制が大きく変わって行くことを委員や市民にしっかりと周知するべきである。

例えば、パンフレット等を作成して、なぜ市直営から団体に委託するようになったのか。委託することによるメリット、デメリットは何か。委託予定団体はどういう団体であるのか。窓口はどこになるのか。使用料はどうなるのかなどの説明が必要ではないか。

委託して良くなるというイメージが見える化し、市民や利用者へ丁寧な説明をお願いしたい。市民や利用者が問い合わせした際に、たらいまわしにならないように委託予定団体との連携を密にされたい。

スムーズな事務移行の準備ができているか。令和5年度事業であるピアノ、ダンス、和太鼓フェスタ、貸館事業に影響は出ないのか。

ホールの定期利用者や市民に対して、案内パンフレットを作成し配布をお願いしたい。ただし、配布前には、その内容について推進会議で確認する必要があるため、再度、推進会議を開催すべきではないか。

⑤過去の推進会議で出た意見に対する市の対応について、ホール運営委託に関する意見や答弁があったが、令和4年4月の第1回の会議から令和4年度は計4回推進会議を開催された。ホール運営委託について、市からの説明を受けその都度意見を述べてきたが、全てフィードバックされているのか。棚上げされているような状況ではないかと思われる。

⑥まちづくり部文化・スポーツ課の担当職員について、令和4年度当初から現在に至るまで担当職員である係長職が3名交代されている。現在の担当係長は体調を崩して休んでいると聞いている。ホール技術員も現在1名欠員のままとなっており、ホール運営委託を開始するこの重要な局面で軸となって主導的に事務を進めて行く職員が不在となっている状況下で、委託の開始が本当にできるのか。委託予定団体としては、不信、不安に感じている。担当課は何とかすると言っているが、本当に大丈夫なのか。

⑦今回は、委員の皆さんにホール運営委託の状況を知って頂くため、何点か質問をさせていただいた。このような状態で安心して業務委託ができると思われるか。このことに対して、市には委員の皆さんが理解し、納得できる説明をお願いしたい。

回答に時間がかかるようであれば、次回の会議、11月か12月に推進会議を設けていただき、説明をお願いする。次回の会議では、きっちりとした議事録を作成いただき、委員からの質問に対して回答いただきたい。

なお、4点目の運営委託に関することは、来年のことであること、またホールを利用されている委員さんもおられるため、この場で答弁をお願いしたい。

(会長)

たくさん質問を頂いたが、中には、次の項目であるホール運営委託のこともあるため、まず、令和6年度事業計画について答弁をお願いしたい。

(事務局)

令和6年度事業計画について、委託予定団体と協議をしたのかということですが、現在のところ協議はできていない。ただ、協議をする材料として、今回資料として提示させていただき、前回の会議で説明した順序と逆になっているが、推進会議でのご意見をまとめて、団体とは改めて協議したいと考えている。

次回の会議について、次第には3月上旬と書いているが、12月に開催したいと考えている。

(副会長)

例年、事業計画を策定する時は、7月ないしは8月に協議し策定するべきであると思われるが、なぜ10月まで遅れたのか。

(事務局)

例年であれば次年度の予算要求のため早い時期に開催するが、令和6年度の予算については令和4年度中に確保しているため、その予算の範囲内で協議をすることになる。ただ、会議の開催が遅れたことについては、事務の遅延によるものであるため、大変申し訳なく思う。

今回の手順は、例年より若干変わっていることをご理解いただきたい。

(副会長)

来年の4月には委託が始まるので、早急に委託予定団体と協議を進めてもらわないと、不安な状態が続くので、真剣に対応していただきたい。

(事務局)

委託予定団体との契約が前提になっているため、そういったことも踏まえながら、早急にご相談させていただきたいと思う。

(副会長)

今年は、丹波の森公苑と丹波市の文化ホールとのイベントが重なることが多く見受けられる。お客さんの取り扱いになっているように見える。10月15日には「子どもミュージカル体験塾発表公演」と「ブラックボトムブラスバンド」、12月3日には「たんばの第九」と「ダンスフェスタ」で同日開催となる。公演日について重なることは仕方ないと思うが、丹波市文化芸術推進基本計画では、県と市の連絡会を年3回程度開催し情報交換をすることとなっているが、前年度、今年度は開催をされたのか。

令和6年度事業計画の策定にあたっては、県との日程調整をした上で、推進会議に提案していただきたい。

推進基本計画が絵に描いた餅にならないよう、今後これが施策のベースになってくることをし

っかりと理解いただきたい。

(事務局)

今年度、県との連絡会が開催されたのか確認し回答させていただく。来年度については、県と日程の情報交換をしていきたいと思う。

(会長)

県も早めに、1年前に事業計画を組んでいる。

丹波の森公苑は、昨年度の改修工事を経て今年の4月から使用できるようになったため、今年は春日文化ホールもライフピアいちじま大ホールも予約が取りやすくなったと思う。

12月3日の第九についても、日程調整が難しく、丹波の森協会が主催している事業を変更しながら調整している。ある程度、日程が重なることは仕方ない。

(事務局)

日程が重なることは仕方ないとしながらも、日程の取り合いではなく、県と市が上手く調整できるよう連携を図っていききたいと思う。

(副会長)

日程が重なることは仕方ないことではあるため、しっかりと情報交換をした上で事業の展開を図っていただきたい。

ホール運営委託について、利用者や市民向けのパンフレットは作ってもらえるのか。

(事務局)

契約締結できる段階になれば、利用申込みをされる方、窓口に来られる方に対して、チラシ・リーフレットを用意し、1月及び4月からの変更点について周知したいと思う。

担当課としても委託が始まり、春日文化ホールに来られたお客様をたらい回しにするのではなく、要望を聞き、委託予定団体と連携を図りつつ適切な対応を行うよう考えている。

周知できる段階になれば、しっかりと周知していききたいと思う。

(副会長)

サービスの低下にならないようお願いしたい。

(事務局)

安定的な運営をするために委託をするものであるため、今までよりサービスが低下することはあってはならないことだと認識している。市広報誌やリーフレットを活用して、利用者に対して十分な周知を図るようにしていく。

(会長)

令和6年度の事業計画について、他の委員さんはどうか。大型公演等について、意見があればお願いしたい。

(委員)

大型公演に400～500万円かけるのであれば、200万円を2回行うなどを考えても良いのではないかなと思う。ただ単純に回数を増やすだけではなく、市民のニーズをよくリサーチした上で、宣伝方法も工夫しつつ、できるだけたくさんの人に來てもらうことを考える必要がある。

人を集めるためには、紙媒体の宣伝だけではなく、ライフピアいちじまの近くでマルシェをやってみるとか、関連の販売をやってみるとか、そういう企画を考えることも大事だと思う。

集客が目的ではないというものの、たくさんの人に聴いてもらうとそれだけたくさん文化が伝わっていることにもなるので、そこは重要だと思う。

オーケストラや合唱団であれば100万円～150万円程度で公演の開催ができる。どうしても聴いて欲しいと思うのであれば、宣伝方法を工夫して400～500人入るようにやっていく。そこに経費を費やしても良いと思う。

(委員)

子供が体験できるもの、地域の子供たちが参加できる公演があれば良いなと思う。

(副会長)

令和6年度事業について色々な意見が出たが、必ず委託予定団体と協議・調整するようにお願いしたい。

(事務局)

承知した。

6 運営業務及び委託について

(事務局)

—資料により説明—

(委員)

ピアノフェスタについても団体へ業務が移るとのことか。

(事務局)

来年の4月から委託予定団体が実行委員会事務局となり、業務が移る。

(委員)

委託になった際にどのようなメリットがあるのか分からず不安な部分もあるため、ぜひパンフレット等で説明を頂けるとありがたい。

(事務局)

委託が始まって、アマチュアアーティスト育成支援事業実行委員会やオペレータークラブ ZERO-IVは、これまでと変わりなく活動していただく。その部分については安心いただきたい。

(事務局)

アマチュアアーティスト育成支援事業実行委員会やオペレータークラブ ZERO-IVの事務局が市から委託予定団体へと移行することになるため内部的な事務としては大きな変更が生じることとなるが、活動自体に制限や変更が生じることはない。利用者に影響が出るようなことがあってはならないので、そこは十分気にかけて事務移行を進めていく。

(委員)

市と委託予定団体とで密に連携を図るということでよいのか。

(事務局)

委員の皆さまや実行委員会に対しても、きっちりとした説明をしていく。

(委員)

委託先は、法人になるのか、民間の会社か。

今後、推進会議には出席されるのか。

(事務局)

非営利型の一般社団法人となる。

推進会議については市が進めることとなるが、本会議設置要綱より、会長が必要と認めるときは委員以外の者を呼んで意見を求めることができるため、法人の職員についても出席いただくことは可能だと考えている。

(委員)

委託先の団体が、公演を選ぶことはできるのか。

(事務局)

推進会議にて意見を聴収し、調整した上で最終的には団体を選ぶことになる。

(会長)

丹波の森公苑ホールにおいても、今は森公苑が事業主体ということで運営しているが、その業務を委託するという話もある。日程については、現在は、丹波の森協会の事業が優先的に取れるが、委託になれば取り難くなる恐れがある。丹波市のホールについても、委託が始まると同じようなことが起こる心配があるがどうか。

(事務局)

市が直営で運営していたときと同じく、市の事業を優先することになる。

(事務局)

収入についてもこれまで通り、市の収入となる。

(副会長)

来年4月に向けての準備の状況を委員の皆さんは分からない。何月からどのような方向で進めていくのかお聞かせ願いたい。

(事務局)

まず12月1日から職員1名体制で、ライフピアいちじまの中に事務所設営し、業務ができる準備を行う。

令和6年1月から3月については、職員3名体制で主に貸館事業を対応いただく。また、その間に開催されるアマチュアアーティスト育成支援事業や自主事業については、市の事業であるため、団体の指導、助言などの協力を得ながら進めていきたいと考えている。

そして、4月からは職員5名体制となり、貸館事業、アマチュアアーティスト育成支援事業、自主事業など全ての事業を行っていただく。

なお、勤務する職員は、現在、市の職員として勤務しているホール技術員の3名が団体へ移り、その後、オペレータークラブ ZERO-IVの会員や経験者が団体に参加される予定となっている。

(副会長)

この推進会議の中でもアマチュアアーティスト育成支援事業に関する提案がいくつか出ていたが、当事業の実行委員会や専門部会に諮られたことが無いように思う。今後は、推進会議で出た意見をしっかり伝えていただきたい。

(事務局)

承知した。

(事務局)

荻野副会長の質問の中で1つ目の会議録のホームページ掲載について、現在は掲載済みであることを報告させていただく。

(委員)

今までと変わらないよう配慮いただけるということなので、大丈夫かと思う。実際に関わられる方の不安や信頼関係が問題になっているようで、詳しいところは分かりかねるが、移行期間に丁寧な調整をされれば上手く行くのではないかと思う。

(委員)

今年、ライフピアいちじまで丹波市の総合文化祭を行ったが、そのときに一部の方から、土足で舞台上がるのはどうなのかという意見が出て長時間議論した。丹波の森公苑では、舞台は原則土足、舞台用のシューズも不要とはっきり決められている。4月から運営体制が変わることもあり、丹波市でもはっきりとしたルールを提示していただきたい。

(事務局)

利用方法については、一度整理する。

(事務局)

市の担当課の係長が不在であることの対応について、ご説明させていただく。

課内での配置転換で調整を進めており、ライフピアいちじま事務所へスポーツ推進係から1名配置転換し、計2名体制でホール運営業務や委託予定団体との調整、文化ホールの事務などについて対応する予定としている。

係のとりまとめについては、主幹職員が受け持ち、係長職は課長が兼務するという形で、3月末まで対応していきたいと考えている。

(副会長)

ホール運営業務委託について、これまで何度も協議してきた中で、何回か不信感を抱くようなことがあったが、今後は一切そのようなことが無いようにお願いしたい。

(事務局)

承知した。

(委員)

ホールの運営体制が変わるこの機会に、もっと面白いことを考えるべきである。

先ほど委員さんから意見があったが、子供に目を向けたい、若い人を育てたいと考えている。小さい頃から音楽や芸能に触れてもらう子供向けの講座を開いて、その発表の場としてホールの舞台があると、皆それを目指して、それが市民ミュージカルに発展していくなど、広い視野で運営を考えていただきたい。

福知山市が、今ホールの建て替えで色々と議論をされている。著名なアーティストを呼ぶためには1,000人規模が必要、市民が使うのだから600人規模で十分だなどと意見が出ている中で、クラリネット奏者の吉田佐和子さんが、文化芸術団体で福知山を変えていこうと今頑張っている。先月のトークライブでは、ボランティアによる市民参画型の運営を9年かけて成功させているという、茨城県小美玉市にある四季文化館「みの一れ」が紹介されていた。ホームページでも紹介されているので、ぜひ見ていただきたい。

ボランティアというのは難しいが、そこに若い人が関わってくる。そして、若い出演者が、1からプログラムや演出を考えることで、ホール運営の面白さを理解してもらえないのではないかな。私は、そういうホール運営ができればと夢を持っている。

7 今後のスケジュール

(事務局)

次回の推進会議は12月で、委託の状況についてご報告等させていただく予定としている。

その後、令和6年2月又は3月に、来年度事業や今年度の総括を報告させていただく予定。

8 その他

(副会長)

先ほど田邊委員も仰られたが、「丹波市ならではの」という部分について、丹波市文化芸術推進基本計画にも記載があるので、小さな子供が体験できるものや市民が1から企画して運営していくものなど、意見を吸い上げて反映していくという方向性を持たないとホール自体が衰退していくと思われる。きっちりとした対応をお願いしたい。

(事務局)

ホール運営については、市としてこれまでからも、社会教育施設から生涯学習施設へという流れは踏んでいる。

ただ、タレントを呼んで来るだけでなく、オペレータークラブ ZERO-IVの活動やアマチュアアーティスト育成支援事業のように、裏方から演者、演出まで全てを丹波市のボランティアで、皆が協力して、全ての人が主人公であるというコンセプトはしっかり持って、今後とも運営していきたいと考えている。

(副会長)

直営から団体にホール運営を委託するという事例は、全国でも稀である。丹波市としても良いPRになるので、お互い成功に向けて創り上げていきたい。

8 閉 会 副会長

今回は、多くの皆さんに傍聴いただきました。この会議はどのような会議で、どのような内容なのか、また来年度に向けてのホール運営委託がどのような方向性を持って進められているのかといったことに興味を持って参加されていると思う。

本日、委員の皆さんから頂いた意見は、今後に活かしていただきたいと思います。

これをもちまして、令和5年度第1回丹波市立文化ホール事業推進会議を閉会します。